

# 知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発－授業づくりを中心に－

## <背景> 知的障害特別支援学級の現状と課題

- 通常の教育課程に加え、特別支援学校(知的障害)の教育課程を参考に、児童生徒の実態に応じた教育課程の編成が求められる
- 在籍児童生徒の知的障害の状態や人数、学年は様々であり、教育課程をはじめ、各指導計画の作成や授業づくりなども実態に応じて行うことになり、担任として求められることは幅広い
- 特別支援学級担任の特別支援学校教諭等免許状の保有率が低い
- 特別支援教育経験3年以下の教員が多い(国立特別支援教育総合研究所, 2014; 2018)

<目的> 特別支援教育経験の浅い知的障害特別支援学級担任の専門性向上を支援するための資料やツールをまとめた「サポートキット」の開発を目指す

### 【研究A：サポートキット試作版の作成】

コンセプト

- ・新学習指導要領に対応し、初心者が見えるもの
- ・学習評価を含む授業のPDCAをガイドするもので、これにより教育課程の理解も深める
- ・中堅・ベテラン・管理職とチームで活用できるもの
- ・既存の教育委員会作成のハンドブック等を補完、補強するもの

中身のイメージ

- ・教育課程の解説
- ・児童の実態把握、目標設定、授業、学習評価まで、一連の流れが分かる事例の提示とポイント解説
- ・研修動画リスト
- ・役立つHPのリンク、役立つ資料リスト
- ・教材例、教室レイアウトの写真、様式ファイルなどのDVD等



### 【研究C：サポートキットに関するモニター調査】

①ベテラン教員6名及び知的障害特別支援学級経験3年未満の教員6名への聞き取り調査  
(授業づくりの手立て、学習評価、教育課程の編成、活用しやすさ、実際に使いたいかについて質問)

イラストと写真は多い方が良い

ポイントを図解で示してほしい

電子媒体が良い

「知的障害のイロハ」は役立つ!

②A県の「小・中学校特別支援学級新任担任研修講座」受講の知的障害特別支援学級担当教員への質問紙調査  
(①同様の質問項目について18名から回答)

授業づくり、学習評価、教育課程の編成に活用できる内容であり、活用したい  
(9割以上の教員が回答)

理解しやすく、活用しやすいようにまとめられている  
(全ての教員が「思う・どちらか」と回答)

授業場面の写真がほしい

③教育センター等への質問紙調査  
(①同様の質問項目及び、研修での活用可能性について、都道府県・政令市教育センター57件から回答)

研修講座で活用したいと思う  
(9割以上のセンターが回答)

情報量が多い

### 【研究B：知的障害特別支援学級における授業づくりPDCAに関する事例研究】

研究の構成

- ①特別支援学級担任によるサポートシートを活用した単元計画の検証と、単元計画時の思考プロセスの聞き取り調査(3事例)
- ②自己評価を活用した主体的に学習に取り組む態度に関連した指導や評価への有効性の検証
- ③指導目標をステップ化することによる、児童の実態に即した単元計画への有効性の検証
- ④タブレット端末を活用した指導におけるサポートシート活用の有効性の検証

事例研究の成果

- ・サポートシートを用いた単元計画により、学級の実態に応じた具体的な指導計画や評価計画を作成できたことから、サポートシートの一定の妥当性を示すことができた
- ・主体的な学習に取り組む態度の評価や指導への自己評価の活用、指導目標や指導内容を具体化するためのステップの計画、ICTを活用した指導の工夫、といった好事例を示すことができた
- ・単元実践と思考プロセスの分析から、サポートシートの説明において、各項目を検討する際には児童の実態や興味・関心を踏まえることを明記する、という改善点が示された



## 授業づくりサポートキット「すけっと (Sukett)」



「すけっと (Sukett)」という通称は、「助っ人」という日本語と、英語のアクロニム Support Kit to Empower Teacher Teams (教員チームをエンパワメントするためのサポートキット) を掛けてつけたものです。

### ～主な内容～

- 【実践編】 知的障害のある児童への指導のイロハ、国語科と算数科の授業事例、授業づくりのポイント等
- 【理論編】 教育課程の編成、学習評価の基本的理解等
- 【資料編】 教材例の写真、役立つリンク集等
- 【事例編】 別冊 NISE授業づくりサポートシート 記入例3事例とポイント解説

詳しい情報はWebページ「すけっと ばすけっと」へアクセス!!



「すけっと ばすけっと」には「すけっと」ダウンロード版に加え、「すけっと」紹介動画や、知的障害教育に関する基礎的な内容を解説した「すけっとどうが」などのコンテンツが揃っています。

### 【研究D：研究B・Cを反映した改善】

<主に改善した内容>

- ・情報を探しやすいよう辞書タブ作成、イラストや図、教材例の追加
  - ・自立活動や各教科等を合わせた指導の解説の追加
  - ・ICT機器の活用などのコラム追加
  - ・他教科で使えるよう解説を追加等
- <公表方法の工夫>
- ・Web公開のためHPを作成
  - ・HPから無料でDL可能にする
  - ・解説動画やPPTスライドを作成等

## [基幹研究]

### 知的障害特別支援学級担当者サポートキットの開発

- 授業づくりを中心に -

(令和元年度～令和2年度)

【研究代表者】 涌井 恵

#### 【要旨】

特別支援教育担当経験の浅い知的障害特別支援学級担任の専門性向上を支援するために、資料やツールをまとめた「サポートキット」の開発を行った。知的障害特別支援学級における授業づくりのPDCAに関する事例研究において、NISE 授業づくりサポートシートを作成し、授業づくりにおける重要なポイントを検討し、その結果をサポートキットの内容へ反映させた。また、サポートキットの試作版について、知的障害教育担当経験の浅い教員や知的障害教育の専門性の高い教員を対象にインタビュー調査を、知的障害教育に携わった経験の浅い教員や教育センター等指導主事を対象にアンケート調査を行った。これらの調査結果をサポートキットの改善へ反映させ、サポートキット完成版「すけっと」を完成させた。

#### 【キーワード】

知的障害、特別支援学級、専門性向上、授業づくり、教育課程

## 【背景・目的】

知的障害特別支援学級担任には、通常の教育課程に加え、特別支援学校（知的障害）の教育課程を参考とし、児童生徒の実態に応じた教育課程の編成が求められる。さらに、在籍する児童生徒の知的障害の状態や人数、学年などの多様な実態に合わせた各指導計画の作成や授業づくりが必要で、幅広い専門性が求められる。一方、担任の特別支援学校教諭等免許状保有率は低く、また、特別支援教育経験3年以下の教員が多い（国立特別支援教育総合研究所，2014；2018）。

そこで、本研究では、特に特別支援教育担当経験の浅い知的障害特別支援学級担任の専門性向上を支援するために、資料やツールをまとめた「サポートキット」の開発を目指す。その際、特別支援教育支援員や中堅・ベテランの担当者、管理職などがチームとしても活用できるよう考慮する。具体的には、国語科と算数科を中心に、指導計画の作成や教育課程の編成について分かりやすくガイドし、単元・授業での指導目標の設定と学習評価を一体的に行い、一人一人の実態とニーズに合った授業づくりをサポートするツールや指導資料の開発を目指すこととした。

本研究により、特別支援教育経験、特に知的障害教育の経験が浅い教員の授業力向上のための方途を見出すことができる。また、特別支援教育支援員や中堅・ベテランの担当者、管理職などが知的障害特別支援学級担任をサポートするチームとしての活用可能性も考えられ、本研究成果の各自治体研修講座への活用など、教員の専門性の向上とインクルーシブ教育システム構築への貢献が期待できるだろう。

## 【方法】

### （1） 研究A：サポートキット試作版の作成

研究Aでは、並行して実施された研究Bの1年目の研究知見を加味しながら、経験の浅い知的障害特別支援学級担当者を対象とした、「知的障害特別支援学級担当者サポートキット」の試作版の開発を行った。

### （2） 研究B：知的障害特別支援学級における授業づくりのPDCAに関する事例研究

研究Bでは、研究分担者及び委託研究受託者による研究協力校での事例研究により、授業づくりのPDCAサイクルに関して検討した。また、この研究によりサポートキットを構成する事例データを収集し、サポートキットの構成内容に関する検討材料とした。研究実施1年目は知的障害特別支援学級における授業づくりのポイントを明らかにし、2年目は知的障害特別支援学級の担当経験の浅い教員が実施しやすく、かつ効果的な学習評価の手法等について明らかにして、学習評価の実際的な運用について検討することとした。

研究Bは、国立特別支援教育総合研究所知的障害教育研究班が担当した研究B-1と、

委託研究受託者である宮崎大学半田健氏担当の研究 B・2、埼玉大学長江清和氏担当の研究 B・3、岡山大学丹治敬之氏担当の研究 B・4 から構成された。

なお、事例研究に際しては、全ての研究において、国立特別支援教育総合研究所知的障害教育研究班が作成した NISE 授業づくりサポートシートを共通の授業づくりのツールとして用いた。その上で、研究 B・1 では、「授業づくりにおける教員の思考プロセスの分析」を、研究 B・2 では「自己記録手続きによる課題従事への効果の検討」、研究 B・3 では「指導の集団化と個別化の課題に係る比較検討」、研究 B・4 では「ICT を活用した知的障害特別支援学級における授業事例の検討」に焦点化した。

### (3) 研究 C : サポートキット試作第二版のモニター調査による有用性の検討

本研究では、サポートキット試作第二版の内容や活用方法について必要な内容の修正点や、読者が有用であると考えられる内容について明らかにするため、3つのモニター調査を行った。3つのモニター調査とは、「研究 C・1 : 教員モニターへのインタビュー調査」、「研究 C・2 : 読者（教員）モニターアンケート調査」、「研究 C・3 : 教育センター等指導主事モニターアンケート調査」であった。

### (4) 研究 D : サポートキット完成版の作成

研究 A で作成したサポートキット試作第二版の内容について、研究 B、研究 C より得られた知見をもとに、改善を行い、サポートキットの完成版を完成させた。

## 【結果と考察】

### (1) 研究 A : サポートキット試作版の作成

サポートキットの開発にあたり、そのコンセプトについてブレインストーミングを行い、最終的な結果を表 1 にまとめた。この表 1 に示したコンセプトにしたがって、研究分担者及び委託研究受託者との協議に基づき、研究 1 年目の 10 月末にサポートキット（冊子）試作第一版を完成させた。授業づくりに焦点化した内容に絞りつつ、授業づくりに関わる最低限かつ基本的で重要な教育課程編成に関する解説を内容に含めた。また、原稿の掲載順を、理論からではなく、事例から掲載することで、経験の浅い教員に気軽に手に取ってもらい、読み進めてもらえようと考えた。

この試作第一版について、研究分担者及び委託研究受託者、研究協力機関、並びに研究協力者が参加する研究協議会において検討したところ、以下のような意見が出された。

- ・サポートキット（冊子）の内容骨子（表 1 参照）について概ね賛同を得られた。
- ・学習評価における評価基準のうち、評価基準 A や評価基準 C を立てるのが難しいとの意見が研究協力校より出された。
- ・授業づくりサポートシートとその記入例を作成し、活用した結果、毎時間記入するのは大変だが、授業づくりに役立つとの意見を研究協力校より得られた。
- ・理論編からでなく、事例編から始める文章構成はよい。さらに、文章レイアウトやイ

ラストや写真の採用など、経験の浅い教員への見せ方や、手に取って読みたくなる工夫が必要（基本的な内容の精選と、文章量への配慮が必要）。

・教材だけでなく、教室環境を含めてどのような配置で教材・教具が活用されているのかの情報もあるとよい。

上記の研究協議会において研究協力機関並びに研究協力者より出された意見を基に、さらに検討を行い、試作第二版版を作成した。

表1 サポートキットのコンセプトと内容物のイメージ

コンセプト	内容物のイメージ
● 新学習指導要領に対応	・ 教育課程の解説
● 初心者が使えるもの	・ 児童の実態把握、目標設定、授業、学習評価
● 学習評価を含む授業のPDCAをガイドするもの。これにより、教育課程の理解も深める	までの一連の流れが分かる事例の提示とポイント解説
● チームとして中堅・ベテラン教師や管理職とともに活用できるもの	・ 研修動画 ・ 教材例の写真
● 既存の教育委員会作成のハンドブック等を補完、補強するもの	・ 教室レイアウトの写真 ・ 役立つHPへのリンク ・ 役立つ資料リスト ・ 様式ファイル等のDVD など

## (2) 研究B：研究知的障害特別支援学級における授業づくりのPDCAに関する事例研究

研究B-1における思考プロセスや各事例の単元の多くにおいて共通した結果から、①知的障害特別支援学級の授業において、児童の主体性や学びの意欲を引き出すことを指導目標や指導内容などを検討する際に着目すること、また、②指導目標の立案、授業の流れ、教材等を考える際に、児童の実態に立ち戻り、それぞれが児童の実態に合った適切なものであるかを折々に確認しながら単元計画が立案されていることが示され、児童の実態とのすり合わせが重要であることが明らかとなった。

一方、サポートキット試作第二版には、児童の主体性や学びの意欲を引き出すことを重要視する記述はなかったため、この点について書き加えることとした。また、事例編の各事例においても、児童の主体性や学びの意欲を引き出すことの重要性を強調したコメントを「授業づくりのポイント」事項として書き加えることとした。

研究B-2では、算数科の単元の実践から、効果的な授業づくりのポイントと、特別支援学級の授業において効果的に用いることができる学習評価の方法を検討した。この事例では、効果的な学習評価の方法として、「直接行動評定」が試みられ、効果が示唆された。

研究B-3では、2名の知的障害特別支援学級担任との授業研究会を通して、知的障害特別支援学級の授業における児童同士の学び合いについて検討した。その実現には、個別

の指導計画を踏まえた個々の児童の指導目標のスマールステップでの設定、個別化と集団化に着目した授業や単元の構成、課題の焦点化、授業の視覚化と構造化などが重要となることが示唆された。

研究 B-4 では、ICT を活用した国語科の授業について検討し、比較的在籍児童数が多い知的障害特別支援学級においても、ICT を活用して授業ができたこと、ICT を「書くこと」のいわば技能面に着目して活用し、児童の書くことへの負担を減らすことで、「書くこと」での思考力、判断力、表現力等も引き出し得ることが示唆された。

研究 B-2、B-3、B-4 については、経験の浅い教員向けに、短く簡易な表現で、それぞれ行動評定の一例、個々の児童の指導目標のスマールステップでの設定、知的障害特別支援学級での ICT を活用した事例のエッセンスについて、サポートキットにコラム化して掲載することとした。特に ICT を活用した事例については、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第 228 号）」（中央教育審議会，2021）や「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」（新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議，2021）において、ICT の活用が謳われているところであり、知的障害特別支援学級における効果的な指導例を示せたことは大変意義が大きい。

研究 B では、全ての事例において NISE 授業づくりサポートシートを活用しつつ、3 点の評価方法を様々に探索したところ、上述のように示唆に富む知見が得られた。NISE 授業づくりサポートシートは、児童の実態が異なる様々な学級において、国語科と算数科の目標や内容が異なる単元に対して、効果的に活用できると考えられる。

### （3） 研究 C：サポートキット試作第二版版のモニター調査による有用性の検討

研究 C-1 教員インタビュー調査において回答があった改善に関する内容と、研究 C-2 と研究 C-3 のアンケート調査において自由記述にて回答のあった改善に関する内容を要約したものを表 5-3-1 に示した。

また、研究 C-3 では、教育センター等での研修講座における活用について、96.5% の教育センター等が肯定的な回答をしており、研究成果の活用と普及が見込まれた。

### （4） 研究 D：サポートキット完成版の作成

上述した改善点について加筆修正を行い、サポートキット完成版を別冊に示した。サポートキット完成版には、「すけっと」という愛称をつけ、表題に入れた。

「すけっと」とは、「助っ人」という日本語と、英語のアクロニム Sukett ; Support Kit to Empower Teacher Teams（教員チームをエンパワメントするためのサポートキット）を掛けてつけたものである。また、研究所 Web サイトに本サポートキット「すけっと」や関連資料をダウンロードできるホームページ「すけっと ばすけっと」を作成し公開した。

表2 研究Cから得られたサポートキット改善点のまとめ

改善に関する意見・要望	完成版への反映内容
分量について 情報量が多い	
内容（レイアウト等）について 情報を探しやすいような目次等があるとよい イラストや図や写真など視覚的な情報がより多く記載されるとよい 教員の悩み（すぐに使える教材等）を反映させた構成	辞書タブのような印を各ページに付加 イラストや図、写真を増量 教材例を追加
付け加えて欲しい内容について 自立活動や各教科等を合わせた指導 他教科について ICT機器を活用した授業づくり 他	解説を加筆 使い方の解説を加筆 コラムを加筆
発表方法について 各校に配布してほしい ウェブ等に掲載してほしい スライドや動画も付け加えてほしい	HPより無料でダウンロード可能。教育委員会や教育センター等へ周知の案内を发出 HPを作成 HPに掲載

## （5）総合考察

昭和48（1973）年に精神薄弱特殊学級教育課程編成の手引きが文部省より発行されてから、平成4（1992）年版まで学習指導要領の改訂に応じて更新されてきたが、ここ20年程文部科学省からそのような資料は発行されていない。近年のインクルーシブ教育システム推進の流れもあり、知的発達の遅れが重度の児童生徒と、軽度の児童生徒が同じ知的障害特別支援学級に在籍する場合もあり、一人一人の教育的ニーズに応えつつ、学級全体として一体的に授業を運営していくには、高い専門性が求められる。

このような現況に対して、本研究により、知的障害特別支援学級に特化した教育課程や授業づくりに関する資料を提示できた。

今後の課題としては、授業づくりの中で学習評価にあたる部分についての検討が挙げられる。また、各教科等を合わせた指導における授業づくりや学習評価についても今後検討が必要である。この検討の際には、上述した知的障害特別支援学級ならではの児童生徒の多様な実態差をどのようにマネジメントしていくかといった学級運営に関わる要素も加味した検討が必要だろう。

### 【成果の活用】

- 研究所 Web サイトに研究成果報告書及びサマリー、並びに本サポートキット「すけっと」や関連資料をダウンロードできる「すけっと ばすけっと」ページを作成し公開
- 「すけっと」紹介リーフレットを作成し、全国都道府県・政令指定市教育委員会や教育センター等にサポートキット「すけっと」冊子と共に配布。知的障害特別支援学級担任への周知を依頼
- 国立特別支援教育総合研究所の専門研修における講義・演習、都道府県教育委員会等主催の研修講座等において、本研究で整理した資料を活用